

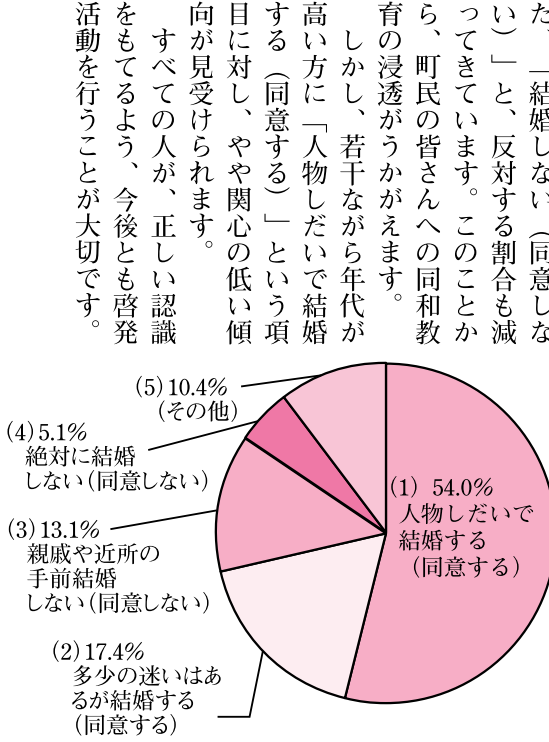
# 同和問題に関する

## 第6次意識調査結果(その二)

1月号に引き続き「同和問題に関する第6次意識調査」の結果を掲載します。  
同和問題に対する意識を分析し、考察を加えながらこれからの人権・同和教育を進めていきたいと思えます。  
※重複・複数・無回答があるため、合計が100%にならない場合があります。

### 問7 あなた(身内を含む)が結婚しようとする相手が、同和地区と言われたところの人であつたら、どうしますか。 《同和問題の根本的課題》

(1)と(2)の項目をまとめ、「結婚する(同意する)」というポイントは5年前(68・5%)と今回(71・4%)は、あまり変わっていませんが、「人物しだいで結婚する(同意する)」の割合がどの年代も高くなっています。また、「結婚しない(同意しない)」と、反対する割合も減ってきています。このことから、市民の皆さんへの同和教育の浸透がうかがえます。



### 問8 同和問題について家族で話し合ったことがありますか。 《家庭内での話し合いの実態》

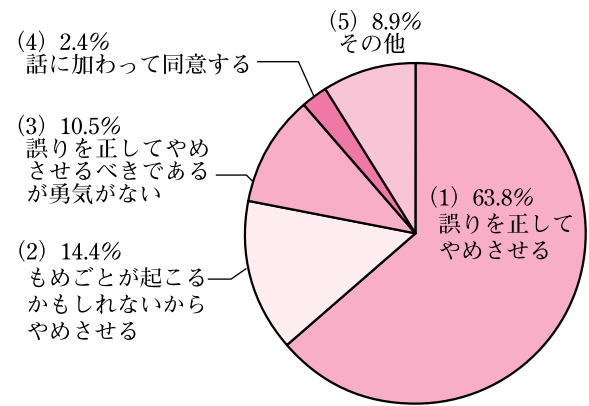
家庭での話し合いの経験を「ある」「ない」に分類すると、「よく話している」と「時々話している」を合わせた「ある」という解答が5年前(26・2%)に比べて、今回(22・1%)は4・1ポイント減少しています。その反面、「めったに話さない」と「まったく話したことがない」を合わせた「ない」という解答は、5年前(69・6%)に比べて今回(77・9%)は8・3ポイント増加しています。これは、同和教育が浸透したために話し合う必要性を感じなくなったのか、あるいは自分の問題としてとらえていないためなのかは、不明です。

しかし、差別事象が今もなお、起きている現状があります。いわれない差別に出くわしたときに、打ち破る力になるのはやはり家族の絆ではないでしょうか。このことから家庭での話し合いが、一層大切であると思います。

### 問9 あなたの家族が、同和問題に関する差別的な言動をしたとき、どうしますか。 《差別に対する考え方と自分自身の態度について》

「誤りを正してやめさせる」という解答は、各年代とも半数以上を占めました。今後とも一層の啓発を推進し、皆さんが積極的な意識をもてるようにするのが望ましいと思います。

反面、「誤りを正してやめさせるべきであるが勇気がない」という解答が10・5%あります。このことは、家族を説得する知識や勇気があるか、自信がもてないのではないかと考えられます。「もめごとが起こるかも」という解答が、年齢層が上がるにつれて増加の傾向にあります。このことは、差別を温存することにつながりかねないと言われています。やはり啓発活動は必要だと思えます。同和問題を自分のこととして、より自分に近くとらえ、行動できるようにしたいと思います。



	よく話している	時々話している	めったに話さない	まったく話したことがない
S60	3.6	49.7	28.3	18.4
H 3	3.2	46.0	35.1	15.6
H 8	2.2	24.0	49.1	20.5
H13	1.0	21.1	53.7	24.2

(%)